

むかしの松山 その2

## 江戸時代の松山

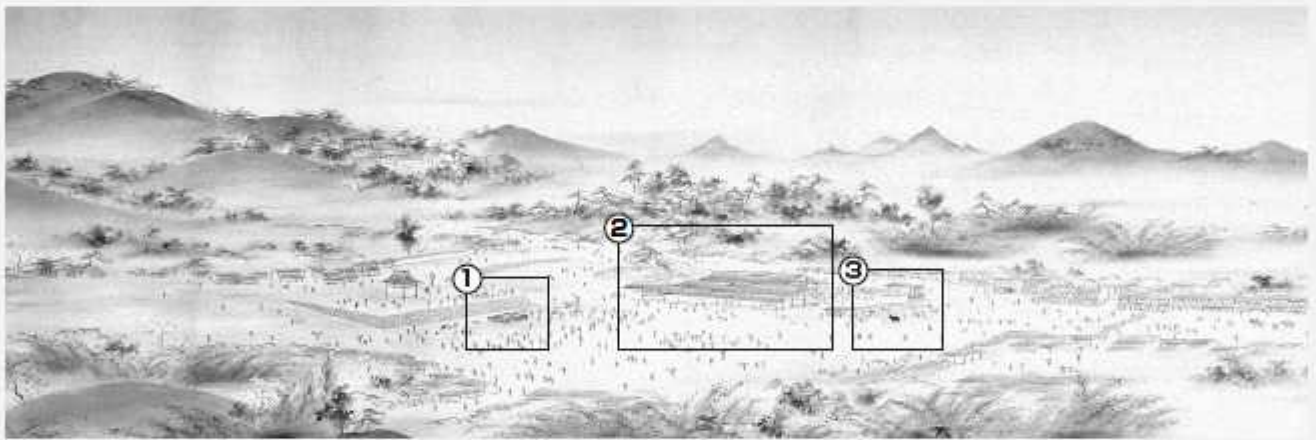
## 文芸のさかんな城下町

江戸時代（400年から150年前）、松山は城下町として栄えました。松山藩をおさめていた松平家の殿さまの中には、俳諧（俳句のもとになったもの）や書道、絵画や能楽など、文芸を大切に人がたくさんいました。そのため、家来や町の人びとも殿さまを見習って、俳諧や書画、能楽に打ちこみました。

松山は江戸時代から文芸がさかんな町だったんだね。

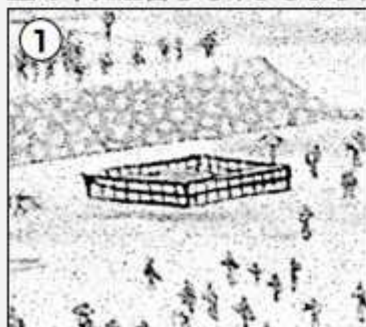


## 江戸時代の道後温泉



これは、江戸時代の道後温泉の様子を描いた絵です。たくさんの人でにぎわっています。中心にある大きな建物が、温泉の建物です。まわりにならんでいる建物は、温泉にやってきた人たちが泊まる宿や、おみやげ屋さんでしょうか？

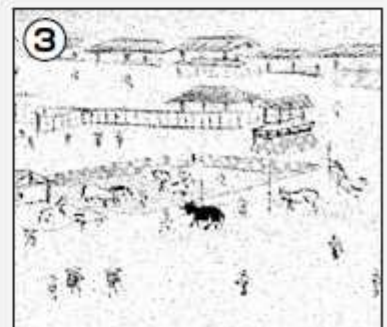
□の中に注目してみましょう。



▲スクナヒコナノミコト神が生き返り、飛び跳ねたという蓋（玉）の石です。今も道後温泉本館の横にあります。



▲道後温泉の建物です。



▲馬や牛が温泉に入っています。

## 江戸時代の松山で活躍した人たち

### 俳諧の栗田栲堂

松山城下の豪商（豊かな商人）で、俳諧を学んでいました。やがて有名になり、栲堂に会うために、全国からたくさんの俳人たちがやってきました。その中でも小林一茶は栲堂と仲が良く、2度も松山にきています。

また、栲堂のいた家を「庚申庵」といい、今も大切に保存されています。

子規は栲堂のことを「伊予随一の俳人だ」と高く評価しています。

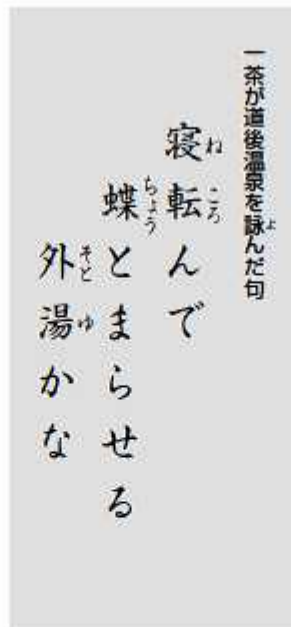
### 絵の吉田蔵澤

松山藩の武士。墨竹画（墨で描いた竹の絵）が得意で、たくさんの名作を残しました。

子規も蔵澤の墨竹画が大好きでした。

### 書の明月

円光寺というお寺の住職。明月の書はとても上手で全国的に有名でした。



▲栗田栲堂

### 展示室でチェック!

### 蔵澤の絵 (右) 明月の書 (下)



松山の人たちは、  
子規が生まれるずっと前から、  
文化を大切に  
してきたんだね。

## 江戸時代の学校

1828年、松山藩は、武士が通う学校「明教館」や庶民が通う学校を作りました。おかげでたくさんの人が勉強することができました。



明教館は  
今も残って  
いるんだね。

### 展示室でチェック!

### 明教館



明教館は、子規が通った松山中学校（今の愛媛県立松山東高等学校）のもとになった学校で、現在も松山東高等学校内に保存されています。